

太宝電子 株式会社

人々と共にいきいきと”感動のある未来へ”

半導体・電子部品の販売および技術開発・製造を通じて、お客様とエレクトロニクス業界に貢献する。

設立 昭和32年6月

従業員数 7名

代表者 紫藤 正行



札幌市中央区南2条西12丁目323番地18

TEL 011-271-3817

FAX 011-251-6903

<https://daikoku-web.com/content/densi/>



技術部長 五十嵐 俊之(左) 課長代理 寺崎 和也(右)

人々の信頼に応える製品を

今回の事業では補助対象経費の範囲が広く、大変ありがたかったです。単年では商品化まで持っていくことが難しかったですが、新製品を早期に市場に出すことができるよう関係各所と足並みを揃えて取り組んでいます。

医療機器分野における事業拡大を目指した医療被曝線量計の改良

医療被曝線量計「MIDSOF」の更なる改良を

電子部品や半導体および自動車部品の販売、電子機器の設計試作及び量産製造ソフトウェアの開発など、エレクトロニクスに関する業務を幅広く行う太宝電子株式会社。特に医療機器分野においては、病院ベッドサイドTV用のリユース式ICカセットタイマーやベッドサイド足元灯など、入院時には誰もが使用するような身近な製品も取り扱っている。

同社は、マイクロコンピューターや電子デバイスを組み込んだ電子機器の設計、製造を得意とする。これまで北海道大学との共同研究事業などにも積極的に参画し、共同開発プロジェクトで製品化した医療被曝線量計「MIDSOF」では、開発設計や機器製造を担った。同社がそれらを発展させるかたちで取り組んだのがMIDSOFの更なる改良だ。MIDSOFはX線透視下で体内にカテーテルを投入して疾患を治療する術式「IVR治療」中に患者の皮膚被曝線量を計測することができる数少ない製品であり、複数箇所を同時測定できる性能が望まれていた。

他分野への技術応用も視野に入れる

近年は心筋梗塞、脳梗塞などの症例が増加し、血管内カテーテル治療（IVR治療）も多く行われている。これまで複数箇所の線量を同時に測定するためには、複数台のMIDSOFを所有する必要がありコスト面で問題となっていた。

同社の取り組みにより、MIDSOFは4点での同時計測が可能となった。開発においては、特に小型化と低廉化に苦心したという。高い性能を保ちながらもシンプルな構成にすることで部品数を少なくし、小型化することに成功した。また、他社製のパーツを組み込むことでコストダウンを図った。現在はプロトタイプが完成し、今後は市場での信頼性を高めるため厳格な性能評価や信頼性評価を約半年間にわたり実施する。

MIDSOFは医療機器として開発したが、ニーズに応じて他分野への応用も視野に入れる。代表の紫藤さんは特に環境分野への応用に意欲的だ。「環境問題に積極的に取り組むことは、未来への責任を果たすことだと考えています」と力強く話す。

医療被曝線量計「MIDSOF」。
試行錯誤を重ね、小型化に成功



MIDSOF内部の構造



同時に4点での皮膚被曝線量計測が可能となった

